

# 「植林つき」でエコ意識にアピール 棺にも「らじさぎ」を求めめる時代

団塊世代にも「自分らしさ」を重視する傾向が強くなる中、売上を伸ばしているのが  
トライウォール(東京都千代田区)の「エコフィン」だ。2008年の販売数は前年の倍の2000本だった。

## 燃焼時に発生する 有害ガスが3分の1に

「故人は自然を愛していたから」「環境に配慮した葬儀をしたい。」  
トライウォールの「エコフィン」  
「ア」はそんな理由で選ばれている。



ダンボールを重ねてつくられた「エコフィン」。  
合板の棺に比べると軽いが、十分な強度がある

一般的に棺は合板でつくられる。それに対して「エコフィン」は主材に紙を使い、木材の使用量を最小限にした。合板だけでつくる場合、1トンの木材からできる棺は36本。「エコフィン」の場合は、約54本つくることができるといわれる。資源の有効活用につながるというメリットがある。

また、燃焼時間も合板製のものに比べて約2分の1に低減。燃焼する際に発生する有害ガスも約3分の1になった。もともと同社は重い荷物を運ぶための特殊三層ダンボールを製造・販売していた。この

ダンボールを製造する技術を生かし、20年前から棺の企画開発に着手。しかし、業績は振るわなかった。布地で覆い、外観の美しさをつくり出す

風向きが変わったのはここ数年のこと。「消費者がエコの観点でダンボールを見るようになった」と同社・コフィンプロジェクトの増田進弘氏は語る。「消費者の多くは、ダンボールは古紙でつくられているからエコ」というイメージを持っていて感じた。そこでエコを前面に押し出した事業展開を考えた。

まず、同社は合板製の棺と紙製の棺ではどういった点が異なるのかを調べた。

合板製の天然の熱帯雨林を使用しているのに対して「エコフィン」は管理された植林木を使

用していること、さまざまな試験をした結果、燃やした際の有害ガスの発生量の少なさや燃焼時間の短さが判明したという。

そこで同社は、「エコ」と「コフィン(棺)」を組み合わせた「エコフィン」という名前前で、新たに棺を発売することを決めた。

葬儀の場に合うよう、棺の内装は布地(この布地も天然素材を使用)で覆った。そのため、一見ただけでは紙でつくられているとは分からない。2006年から本格的に販売を開始したが、「紙製」と言うまで気が付かない人も多いという。

加えて同社は「エコフィン」が1本売れることに10本の植林を行うことを決めた。葬儀中に排出される二酸化炭素はおよそ200キロ。その排出量を吸収するための方法として、植林を実施することに決めた。植林を行う

四万十川上流域の森林の間伐材を利用して、手入れされた森林に生まれ変わる



2009年6月に開催された「エコフィン」を披露した。向かって左が「エコフィン」右が新しく発表された「エコフィン」だ



のはモンゴルだ。

## 「葬儀で社会貢献」 悲しみを癒す効果も

実際に販売を開始すると、遺族が「エコフィン」を選ぶ理由はほかにもあった。「癒し」の効果だという。

エコフィンの利用者に、同社はアンケートハガキを渡している。同社の元に返ってきたハガキには、感謝の言葉が綴られていることが多いという。「最後に社会貢献ができたのでよかった」

「別れは悲しかったが、少しでも地球の温暖化防止に役立ててよかったです」

同社の元に届いたハガキには、身内との別れに際し、故人に合った棺を選べたことや、葬儀を通じて社会の役に立てたことを喜ぶ声が記されていた。

少しでも故人らしい葬儀をしたと考えていた人や社会貢献をしたいと思っていた人のニーズに添えていたのだ。

現在、「エコフィン」は口コミやイベントでの展示などで広まっているという。葬儀に関する

の商品やサービスを集めたイベントなどでは、消費者に実際に「エコフィン」を見て触ってもらい、環境に配慮していることや見た目の美しさをアピールしている。

また、葬儀業者には、実際に「エコフィン」を使った消費者からどんな感想が寄せられているかを伝えている。消費者の反応を知ることで、取り扱いを始める葬儀業者も多いという。

着実に販売数は伸びており、「今年には3000本以上の販売数が見込まれる」と増田氏は語る。

## 間伐材を利用した棺を 09年から新たに発売

同社は09年秋に新たに「エコフィン」を発売した。これは間伐材を使用することで森林保護を推進するというコンセプトの商品だ。音楽家の坂本龍一氏が代表を務める「more trees」とのコラボレーションによって生まれた。

仕組みはこうだ。「more trees」が整備をしている四万十川上流域の森林の間伐材とトライウォール素材の組み合わせで「エコフィン

「ウィル」を製造。この「エコフィン」が売れるたびに、売り上げの一部を「more trees」に寄付する。寄付金を使い、「more trees」は森林の整備を進め、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の吸収削減を図る。

棺の製造に使うのは、ヒノキだ。「ピンクがかかった手で触りがなめらか」(増田氏)なため、見た目にも美しい棺をつくることできる。

「葬儀の無宗教化が広まり、新たにエコという選択の基準が出てきた」と増田氏は指摘する。その選択肢の一つとして「エコフィン」を同社は提案している。

消費者の志向をうまくとらえた商品を開発した同社。「葬儀」と「エコ」という新たな組み合わせで、売り上げ増加を狙う。

### Company Profile

トライウォール  
東京都千代田区永田町1-11-32  
全国町村会館西館6階  
資本金 3億1000万円  
従業員 40人  
03-3519-5118  
http://www.ecoffin.jp/